

2023年度(令和5年度) ケーブルテレビ館林放送番組審議会 議事録

1. 開催日時 2024年2月19日(月) 11:00～
2. 開催場所 ケーブルテレビ館林(館林市美園町13-2)
3. 委員の出席 審議委員総数 16名
出席委員数 15名(随員3名)

■出席者(敬称略)

多田善洋	会長	(館林市長)
栗原実	委員	(板倉町長)
橋本光規	委員	(邑楽町長)
清水靖之	代理出席	(明和町政策室長)
須永洋子	代理出席	(千代田町企画財政課長)
鹿沼義一	代理出席	(館林商工会議所中小企業相談所長)
小池敏郎	委員	(板倉町商工会会長)
石倉利昭	委員	(明和町商工会会長)
高野広	委員	(千代田町商工会会長)
長山清	委員	(邑楽町商工会会長)
梁瀬充治	委員	(館林市区長協議会理事)
今井三枝子	委員	(板倉町行政区長会会長)
木戸浩之	委員	(館林市教育委員会教育長職務代理者)
矢嶋廣紀	委員	(板倉町教育委員会教育長職務代理者)
山本樹	委員	(まちづくりを考える研究グループ代表幹事)

■ケーブルテレビ株式会社 出席7名

高田光浩	(代表取締役社長)
中沢利樹男	(常務取締役)
関修也	(館林センター局長)
今泉勉	(コンテンツ部 地域プロモーション課課長)
関口百合子	(コンテンツ部 地域プロモーション課係長)
横山拓	(コンテンツ部 地域プロモーション課係長)
吉武柚美	(コンテンツ部 地域プロモーション課)

4. 報告事項

【全体】

- (1) 新委員の委嘱に関する報告
- (2) 放送エリア及び加入状況に関する報告
- (3) ケーブルテレビ(株)の取り組みに関する報告
- (4) 前回の審議会での指摘・進捗報告

【委員】 ケーブルテレビ連盟に加盟している企業の数はいくつですか？

【CATV】 約 350。その中から弊社制作番組が、昨年、準グランプリに選ばれた。

【委員】 各自治体との包括連携協定を結んでいるが、その内容は？

【CATV】 防災減災に関することや行政のデジタル化に関する事など、10項目について協定を締結している。

【委員】 「包括連携協定」の締結は、自治体とケーブルテレビ、どちらから依頼をしたのか？
また目的は？既に締結した自治体とそうでない自治体があるが、今後の対応は？

【CATV】 安全に関わる放送協定は、全ての自治体と締結している。包括連携協定は、地域のDX化のお手伝いなどのご要望に対応していくため弊社から依頼。協定締結の目的は、自治体からのご要望にスムーズに対応するためのもの。今後、すべての自治体と締結していきたいと考えている。

【委員】 館林邑楽郡の自治体は、合同で1回で締結すればよかつたのではないかと？

【CATV】 自治体によって協定内容が異なるため、自治体ごとに丁寧に対応していきたいと考えた結果。

【委員】 現時点で協定を締結していない自治体があるということは、館林市邑楽郡内の和を乱すことにもなりかねない。慎重に考えてもらいたい。

【コミュニティチャンネル関連】

- (1) 2023年度の取り組み
- (2) チャンネル構成
- (3) 主なレギュラー番組
- (4) 主な特別番組

質問・回答 特になし

5. 議事

(1) ご視聴番組に対してのご意見・ご質問 (①～④)

① ぐんま HOT ステーション

【委員】板倉町の「文化財火災訓練」の話題は、臨場感があってよかった。「邑楽町ふれあい花道」のニュースに関しては、どこにあるのか分からなかったので地図があればよかった。

【委員】館林市の話題が多いと感じる。毎年開催している地域の行事も、丁寧に取り扱ってほしい。

【CATV】「住民が主役」を意識して、丁寧に放送していかなければいけない。取材ネタ情報は各自治体からたくさん提供をいただいているが、偏りのないよう「より多くの地域情報を放送する」という気持ちで、自社での情報収集にもさらに力をいれていきたい。

【委員】「千代田町きものコレクション」の映像について、一人ひとりの映る時間が長いと感じた。より多くの着物が見たいと思った。また、カメラアングルが下からで不自然に感じた。日頃からニュースを観ていると、原稿と映像が合っていないところがある。

【CATV】撮影技術の向上はもちろん、編集作業などにも注意して番組制作を行っていく。

【委員】いつも地域住民の笑顔があふれる番組づくりに尽力していると感じる。

【委員】邑楽町のTV加入率が低い。どうしたら増えるかを考えた。「若者のテレビ離れ」に対してインターネットサービスを大きく打ち出し、「ついでにテレビが観られる」というアプローチはどうか。

【CATV】邑楽町の加入率については弊社の営業努力が足りない。利用者は増えており、ケーブルテレビの知名度はだんだんと上がっている所以今後も頑張っていきたい。利用者は、新規加入も含め高齢者が多い。子育て世代に向けた番組として、地域の子どもたちを対象にした番組をつくっていきたい。

【委員】以前、地域の中学生・高校生といっしょに番組を、という意見を出した記憶がある。

【CATV】昨年から地元高校生に出演してもらい、ニュース内のコーナーとして放送を始めている。

② 出前講座「館林紬について」

【委員】ずっと同じ映像で単調だった。出演した職人の緊張がほぐれるような努力、念入りな打ち合わせが必要だったのではないか。

【委員】近くにいても知らないことがあることを知った。最近のテレビ番組は展開が早く理解できない部分もあるが、ゆっくり見られてよかった。「人に歴史あり」が伝わった。

【委員】館林市外にも紬の織子がいる。取り上げてみてはどうか。

③ 特別番組「太鼓の音は生命の音」

【委員】字幕テロップも入っていてわかりやすく番組構成が丁寧。

【委員】「太鼓」については、子どもたちの楽しそうな顔をみると、今後も引き継いでいくことが大切なのではないかと思った。

(2) コミュニティチャンネル全般に関するご意見・ご質問

【委員】学校行事で「子どもの顔を映してほしくない」という保護者がいると、その学校に取材に行っていないと思うが、一方で様子を放送してほしい保護者もいると思う。

【CATV】(卒入学式など) 大きな行事でNGの場合は、日々の別の行事で取材に伺えるよう、全ての学校や園に連絡をして取材調整をしている。

【委員】ケーブルテレビの加入率が低いのはなぜか？また、加入率をあげるためにどんなことをしているのか？どれくらい加入率があれば平均といえるのか？

【CATV】全国的には、電波障害がある地域は加入率が高い。加入率30%がひとつの目安となる。「コミュニティチャンネルの質を高めていく」と同時に、すべてケーブルテレビにお任せいただけるよう、テレビ、ネット、電話などのサービスをセットで安くご提供し、ご好評いただいている。地域に密着しているからこそその強みである「サポート力」を生かし、お客様にご満足いただけるよう、引き続き努力を重ねていきたい。

【CATV】今回いただいたご意見ご要望を検討・改善し、視聴者目線で番組制作をすることを制作スタッフにも共有し、よりよい番組を放送していけるよう努めて参ります。

以上